

予算特別委員会記録（第3号）

平成17年3月22日 火曜日 午前10時00分開議

大 沼 久 委員長 佐々木 謙 二 副委員長

出席委員（20名）

1番	我 妻	昇	委員	2番	内 谷	重 治	委員
3番	大 道	寺 信	委員	4番	谷 口	栄 子	委員
5番	佐々木	謙 二	委員	6番	安 部	隆	委員
7番	町 田	義 昭	委員	8番	鳥 谷	政 一	委員
9番	蒲 生	光 男	委員	10番	渋 谷	佐 輔	委員
11番	高 橋	孝 夫	委員	12番	小 関	勝 助	委員
13番	大 沼	久	委員	14番	鈴 木	小 市	委員
15番	藤 原	民 夫	委員	16番	鈴 木	武 次	委員
17番	蒲 生	吉 夫	委員	18番	佐々木	榮 七	委員
19番	島 田	友 市	委員	20番	鈴 木	新 助	委員

欠席委員（0名）

説明のため出席した者

目 黒 栄 樹 市	長	長谷部 宇 一	助 役
佐 藤 義 夫 収 入	役	佐 藤 仁	総務課長兼選挙管理 理委員会事務局長
松 本 弘 財 政	課 長	中 井 晃	企画調整課 長
梅 津 敏 昭 税 務	課 長	小 泉 良 一	市 民 課 長
船 山 祐 子 健 康	課 長	宇津木 正 紀	福 祉 事 務 所 長
勝 見 健 一 会 計	課 長	鈴 木 国 男	消 防 主 幹
大 滝 昌 利 教 育	長	平 英 一	管 理 課 長
梅 津 和 士 農 林	課 長	那 須 宗 一	商 工 観 光 課 長
浅 野 敏 明 建 設	課 長	青 木 修 次	水 道 事 業 所 長
平 進 介 文 化 生 涯 学 習	課 長	寺 島 吉 昭	置賜生涯学習プラザ 館長兼中央公民館長
小 島 敬 二 図 書 館	長	堀 邦 夫	学 校 給 食 共 同 調 理 場 長
平 正 行 市 民 文 化 会 館	長	遠 藤 正 明	農 業 委 員 会 事 務 局 長

沼澤 厚子 監査委員事務局長

鈴木 一則

勤労センター所長

### 事務局職員出席者

井上 和良 議会事務局長  
五十嵐 恵美子 主 任

児玉 行宏 補 主  
塚田 知広 主

佐 事

### 本日の会議に付した事件

- 議案第 1号 平成17年度長井市一般会計予算
- 議案第 2号 平成17年度長井市国民健康保険特別会計予算
- 議案第 3号 平成17年度長井市物品調達特別会計予算
- 議案第 4号 平成17年度長井市公共下水道事業特別会計予算
- 議案第 5号 平成17年度長井市老人保健医療費給付事業特別会計予算
- 議案第 6号 平成17年度長井市山形鉄道運営助成事業特別会計予算
- 議案第 7号 平成17年度長井市農業集落排水事業特別会計予算
- 議案第 8号 平成17年度長井市訪問看護事業特別会計予算
- 議案第 9号 平成17年度長井市介護保険特別会計予算
- 議案第10号 平成17年度長井市浄化槽事業特別会計予算
- 議案第11号 平成17年度長井市用地特別会計予算
- 議案第12号 平成17年度長井市水道事業会計予算

## 開 議

大沼 久委員長 おはようございます。

これより17日に引き続き予算特別委員会を開会いたします。

本日の会議に欠席の通告委員はございません。よって、ただいまの出席委員は定足数に達しております。

### 平成17年度長井市各予算案に関する総括質疑

大沼 久委員長 それでは、総括質疑を続行いたします。

順位4番、議席番号11番、高橋孝夫委員。

11番 高橋孝夫委員 おはようございます。

私は、行財政運営が誤りなく展開されることを祈りながら総括質疑を行います。

3点につきまして質問申し上げますので、明確な答弁をいただきますようお願いをしておきたいと思います。

質問の第1は、はなぞの保育園の運営についてです。

昨年12月定例会で、はなぞの保育園の運営を社会福祉法人長井市社会福祉協議会に移管することが決まりました。しかし、さまざまな議論がありまして、12月定例会の厚生常任委員会の議事録でも触れられているとおり、議決以降に整備されなければならない課題も残されているわけで、今回はそのことを中心にお伺いをしたいと思います。

まず第1点は、運営費負担金の考え方について福祉事務所長にお伺いをいたします。

昨年の12月に私どもに示されましたはなぞの

保育園事業概要調書、これによりますと、運営費としては1億2,970万5,380円と示されております。当然にして、この程度の額が17年度は市からの運営費負担金として措置されるものと考えておりましたけれども、示された17年度予算では1億2,233万1,000円の計上ということになっております。さきに福祉事務所からいただきました資料、平成17年度はなぞの保育園歳入歳出内訳によりますと、正式には1億2,233万880円ということでありました。この差額737万4,500円ということになるわけですが、なぜこういう差額が出るのかということ、まず説明をいただきたいと思います。

大沼 久委員長 宇津木正紀福祉事務所長。

宇津木正紀福祉事務所長 お答え申し上げます。

ただいま高橋委員のはなぞの運営費の額がなぜ違うのかというご質問でございますが、ゼロ歳児と1、2歳児の単価が違うということがありまして、当初1億2,900万円で見るときにはゼロ歳児が26人であったんですが、予算編成時におきましてゼロ歳児の申し込みが18人というふうなことで、人数が違う、減っているということで、8人ほど減っているということが大きな要因であります。

それから、もう1点については、寒冷地加算が改正されまして、ゼロ歳児が2,590円から1,670円、1、2歳児が1,410円から1,110円、いずれも1人1カ月当たりの寒冷地加算でございますが、こちらも減っているという2点から、このような1億2,233万円余りの予算計上といったところでございます。

大沼 久委員長 11番、高橋孝夫委員。

11番 高橋孝夫委員 この概要調書を見ますと、確かに基本額であるとかいろいろ額があって、それで収入は算定をするのだというふうになっているわけです。今回示された1億2,233万880円というのには、福祉事務所長にお伺いしますが、概要調書で言っている運営費収